○タイムスの日露戰爭批評（五）

（二月十三日所載軍事記事の所論）（編輯）

旅順が戰傷中に「此戰鬪に參加せざりしオーロラの艦上にありたる」負傷候補生云々（記者曰く同日のタイムス電報欄に掲載するアレキシーフ總督の公報中には戰鬪中負傷したる海軍砲兵中佐サポンチョースキー及び此戰鬪に參加せざりしオーロラの艦上にありたるペトロフラ候補生は快癒に向ひ居たり云々とあり）とあるは寧ろ解し難きに似たり此巡洋艦に就て最近に聞知せる所は即ち一月廿二日寧波にありたりと云ふにあり同日東方に向け出發したる趣にして其後の事に就ては更に報告に接せず同艦は比較的新造軍艦にして廿浬の公稱速力を有す紙上に於ては之を以て八日夜に既に旅順口に達し居たりとするも必ずしも奇ならず然れども如何に露國建造の巡洋艦に其價値を認むると雖なるも之に十八浬の海上速力を保持し得たりと見るみと既に其機度にして是れにては未だ其到着を八日に豫期するみと能はず是を以てか此軍艦を旅順口の艦隊中に算ふるには其前に先づ之に關する詳報を待ざるべからず思ふにオーロラと云ふは運送船アンガラと其名の相似ぜられたるものにわらざるか

みの間に於て大陸への日本軍隊輸送は更に其一歩を進めたるみと最早や確信するに堪へたり尙ほ嚴密なる檢閲を經て我等の許に達する通信員の電報に對し其言外の意味を探ぐるに陸戰上の發展は又海軍の打擊の如く迅速なるものあるべし云々との鋭利なる觀察者よりタイムスに與へたる警告は即ち之を以て陸軍の決戰的行動目前に踏期され居るものなりと爲すみとを待べし此觀察者は附言して曰く「海戰の狀況は頗る注意に堪へたり」と云ふ意は其行動を先了し其成功を明確にする爲め軍隊の軍艦に引續き居れるを意味するものならざるべからず廣大なる海面に既に露國軍艦をして其影をだも止めしめざるを得たるを以て日本は今唯其上陸地點に關して之が選擇に逃へるのみなるべし然れども打擊を加へ得べき適當距離内に於ては露國の其軍隊を密集せしめ居れる地點二箇あるのみ一は旅順口にして一は則ち鴨綠江なり第一回の陸戰は必ず此兩地點に對して起されざるべからず唯日本參謀本部の計畫に至りては何事の未だ發表されたるものなく又打擊の下らんとする時機切迫し居れるを警告するに堪へたる形跡更に存するなし但し戰備せる露國の敵を長驅せしむるに足る所以は即ち海陸兩軍の交互に行動するみとなくして各箇同時に相呼應し全力を用ひて其敵に當り根本よりして其敵を覆し得るの威力を有するにわりとす海軍のみを以てしても優に大軍を擁するに堪へたり然れども其力の海岸に至りて止る迄は究る能はざる所にして決勝的戰鬪即ち敵をして和を乞はざるべからざるに至らしむる戰鬪は其武力を陸海双方に相平均せしめて之が共同せる恐るべき敵力を用ふるみとを得べき海國にわらざれば必ず之を爲すみと能はず此力の實量に其兵力を乘じたるもの即ち之を以て軍事的動力なりとす重量の大なるに從ひ速力の又大なるに從ひて敵をして益〻其打擊に堪ふるみと能はざらしむ

率直に之を云へば日本は英國の實戰に學ぶ所わりて大に之を改良したるものなり我等は曾て少なからざる戰爭を經常に海上に於ては猛烈に且つ迅速に打擊を加ふるに成効したり然れども陸軍に至りては開戰の劈頭に於て海戰に次ぎ直に其動作を爲し得たるみと頗る稍なり否實て之なしと云ふも亦過言にわらずとす之が爲め今日迄で常に長期に亘りて而も危險にして且つ高價なる戰爭を行へり日本は即ち居れるものなるみと之を想像するに難からず是を以てか日本艦隊は今既に他の任務を取るに至りたるやも亦知るべからざるなり此點よりして之を云へば去る十日夜遼東灣の西海岸奏臺鳴沖に於て十五隻の日本艦船見受けられたり云々との天津よりの報頗る注意するに堪へたり一方に於て我等は未だ曾て此戰鬪に於て日本の受けたる損害につき聞知する所わるなし海岸砲臺既に戰鬪に加はりて些少ながら其損害を負ひたる以上は日本軍艦の之が砲火を受けたるみと亦明白なり本朝發表されたるタイムス特別通信員の戰海軍電報に據れば日本艦隊旅順口の港外錨地に面せる砲火に歸し居れり旅順口の港外錨地に面せる砲臺は武器の點に於て頗る怖るべきものわり港口東面の丘上には六箇乃至八箇の砲臺あり約五十門の砲を備へ西面亦略ぼ之と等しく砲臺に於ける最大砲の口徑は其大さ日本艦隊の有する最強砲の口徑と相如けり露國艦隊は即ち其海岸を距るみと一哩半以内の海面に於て其運動を行ひたるが如くなりと雖も東鄉提督は長距離より之に對戰して海岸に接近するみとは之を避けたるに似たり斯の如くにして海岸砲臺よりの彈丸遠きみと其極にわりしを以て之が危險は甚しく大ならざりしなるべし然れども高く其位置を取れる海岸砲臺の砲火の下にわりて艦隊と交戰するは危險なち難たるを免れず之が爲めに此戰鬪の公報は必ず鶴首して待たるべきなり今日迄で露國は未だ一隻の日本艦船だも之を破壞したるを主張せず露國と雖も其砲火の與へたる結果は之を注意するに堪たるものなるべし然らば此種の成効存する場合に於て豈之を云はざるの理わらんや提督の電報は又他の風說を傳へり曰く瀋州に於て其電信線切斷されたりと此事は明に尙早なりと斷ずるを憚らず然れども小部隊に依りて鐵道及び電線の攻擊さる〻事實は既に切迫し居れるが如くなれば相當の時日を經て必ず其事を見るに至るべきか寧遠、元山、馬山浦間の電信線切斷されたりとの報も亦本日之を得たり多分元山、馬山浦の兩地に日本兵の上陸したるに依るものならん長崎、浦鹽斯德間海底電線の不通となりたるは一交戰國の土地より他交戰國の土地に直接通ずる線なるを以て是れ必然の事なりとすべし

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

共同目的の爲め一切の軍事的勢力を結合して鍛冶し得たる所以の鋼は如何に之を用ふべきかを我等に教ふるものなり縱しや敎授の遂船海底に沈沒したりとするも何かあらん五千萬の日本人は其後方に存せり海上の攻撃に於て能く一萬の兵を犧牲に供し得べしとせば盤嶽上に於て亦同數の兵を失ふを敢てするを能はざるの理あらんや是を以てか我等は日本遂船の大船隊既に大に其翼を張り得たるを信ず敵艦の之を認むるあらば此等は鐵矢に遇ひたる野鳥の如く直に遁走すべし結局鴨綠江に於ける露國の鐵矢は轉々翔翱する此遂船を見るのみにして何れより來り又何れに去るを知らざるみと能はず嗚其出沒常なきに對して徒に敵の強きを歎ずるの外なからん

日本の實際に行へる處は今日に於て島帝國が國民的戰術の理想として又模本として動かすみと能はざるものなり我等の學びて之に近迫し得るに從ひ我等は英國王冠の下に於ける廣大なる領土に戰爭の防止を期し得るみと益ゝ牢かるべきなり

（此項完）

○タイムスの日露戰爭批評（六）

露國海軍の不注意

タイムスの軍事投書家が其二月十五日發行の紙上に於て論じたる所左の如し

アレキシーフ提督は又もや其太平洋艦隊に生ぜる他の災害を報告せざるべからざるに至れり今回は少なからざる人命の損害之に伴ふ即ち二月十一日大連灣の港口に於て其流動した る布設水雷を原位に復せしめんとして繼なく此水雷として他の水雷と相衝撃せしめ布設水雷母艦エニセイの艦首に當りて爆發するに遇び遂に同艦を沈沒せしめたるみと是れなり其沈沒の頗る速なりしは九十六人の乘組員爲めに溺死したるに依りて之を知るみとを得べし

エニセイは千八百九十八年クロンスタットに於て建造に着手され其翌年に至りて進水したるものにして二千五百の指示馬力を有す武器は四、七吋砲五門と稍や小口徑なる速射砲六門とより成り公稱する處に從へば五百箇の布設水雷を艦中に貯ふるに堪へたり此災害の損失は露國に取りて頗る大にして曾に其人命損害の悲むべきものあるに止まらず貴重なる軍艦品は爲めに消滅に歸したるものなりとすべし其姉妹艦アムール何は存して用ふるに足れりと雖も此失はれたる軍艦品は決して容易に補塡さるべきものにあらず總督の電報に依りて判じ得る限り此事には日本毫も關與し居らざりしに似たり然らば即ち露國が其第一着の海軍行動に於て現はしたると少なくも同等なるべき不注意の茲に又現出されたるものなりと爲すみとを得べし

日本の攻撃を反覆せざりし理由

八日及び九日の旅順口戰爭に關する東郷提督の公報は今聞くにして着せり此報告は戰鬪の翌日に認められたるものにして內に注意するに足るべきものあり即ち日本艦隊は微なる損害を受けたるのみにして其戰鬪力に至りては毫も減少するみとなしと云ふみと是れなり「聯合艦隊の六日に於て佐世保を發し」たるみと及び「萬事の計案通りに遂行し」たるみとは此報告に依りて之を見るみとを得べし夜襲の詳細に就ては其記事を欠く然れども九日に於ける戰鬪の久しからずして中止されたるは其原因、露國艦隊の日本艦隊を誘ひて之を陸上砲臺の密集砲火の下に致さんみとを欲し漸次港口に向け退却したるにあるみと明なるが如し東郷提督の精に乘じて之を追躡するみとを公言せりしは誠に賢明なる行動にして提督は四名の戰死者と五十四名の負傷者を出したるのみにして遠く航走し去れり之が死傷者數は露國の死傷者數と略ぼ同一なりと雖も之には其艦艇の損害を有せず提督は認めて露兵の士氣頓喪したるものなりとす蓋し前夜之が襲撃を受けて爲めに蒙りたる心意的結果の尙は未だ回復し居らざりしものなるべし我が東京通信員よりの電報は旅順口に於て交戰したる日露兩國の艦名を羅く列叙す此報に從へば露國艦隊は其前方五哩の處に水雷艇を配置して以て自ら守りたり然るも三時間砲撃の後日本水雷艇は之に突進して其港內に遁走せんとするツェザレヴィッチ、レトヴィザン及びパルラダに對し水雷を發射し得るの地に至り遂に之をして航路上に沈沒するに至らしめたりと云へり

水雷艇砲撃の際輕微なる南方の軟風あり十日に至りて風力は大に加はりたるが如し日本提督が其率ゐる艦艇より更に詳細なる報道を徵するみと能はざりしは全く之が理由に基づく旨自ら說述し居れり日本艦隊の意志翌後再び其攻撃を繼續せんとするにありしとするも此事實は即ち其計案を變更せしむるに堪へたるものなりしなるべし

○タイムスの日露戰爭批評（七）

（二月十五日所載）（軍投書家の所論）（つゞき）

露國の不法行爲

浦鹽斯德艦隊は明に外洋に出でたるが如く之が顯したる異害につきて昨日巨多の風說流行せりグロモボイ、ロシア、ルーリック、ボガチル及び一運送船は去る十一日津輕海峽に現れたり此一運送船と云ふは多分レナならん撃ぜらるゝ所に據れば此等みな西方に向け航走しめたるもの蓋し此巡洋艦隊なりしなるべし名古浦丸撃沈の一條は頗る米國の人心を激動す報道の表面よりして察すれば露軍艦の此行動全然辨じ難きものあるに似たり然りと雖も之に對して何等かの意見を加へんとするには先づ之に關する詳報を待つを以て可なりと

浦鹽艦隊の行動

す日本商船にして若し露國司令官より停止を命ぜられ而も此命令に應ぜざりしものなりとせば露國の之を砲撃する固より其權內にあり然れども斯の如き豫備的命令を與ふるを要せず直に發砲し單に日本國旗を揭揚するの故を以て乘員其他船を擧げ彼の武備なく防禦力を有せざる一船舶を不法にも海底に沈沒せしめ終はりたるものなりとせば其行爲たる各文明國に於て至大の難詰を受くるに堪へたるべく又必ず之が難詰を受くるみとなるべし敵國商業の破壞を以て戰鬪の一目的なりとする大陸の論者中には斯の如き行動をも尙ほ之を是認せんとするものなきにあらずと雖も此論者は其自ら自家擁着の位置に立つるを知らざるものなり此議論にして直に實行さるゝに至らば敵をして嚴に之に報復を加ふるに至らしむるは無論にして又之が報復の行動を正當ならしむに足るべし近世式の私船戰爭として商業の侵略を試み即ち戰利品として船舶の浦鹽に行ふみとあり此行爲は自ら公海上に於て殺人を行ふみと別問題たらざるべからず但之が罪の詳密且つ明白に立證さるゝに至るまでは國際法破壞の行動を以て露國の海軍を難ずるみと尙ほ或は早計たるを免れざるべし